

学校教育課長 様

神戸市立科学技術高等学校長 高 島 日出男

学校マネジメントプラン計画書

1 学校マネジメントプランの策定期間

平成30年 ～ 平成32年（ 3 年間）

今年度は 1 年目

2 目指す生徒像

「ものづくりは人づくり」を教育活動の基本姿勢とし、「ものをつくる喜び」を通して「科学を探究する心・技術者としての倫理観」を育成する。また、工業に関する広い視野と望ましい職業観を身に着けるために、基本的な生活習慣や※6S活動を通じた安全安心な生活環境や社会を実現しようという態度を養う。これらを基盤として社会人基礎力を培い、国際社会の変化・時代の要請に即応できる「社会で生きる力」を持った生徒を育成する。

☆ 6S活動とは整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（マナー）Safety（安全）の頭文字をとったものである。

3 中期経営目標と中期行動計画

「目指す学校像」の実現をより確かなものとするため、中期経営目標と中期行動計画を策定する。

中期経営目標	中期行動計画
1. これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していく	(1)10年後の社会を意識しつつ「どのような力を身に付けさせるか」という目標とする学びの終着地点の明確化を図る。 (2)学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。 (3)「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、生徒が主体的に試行錯誤したり、他者と協働したりして、自分なりの答えや新たな価値を生み出していく授業の展開を図る。
2. キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。	(1)職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点からインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い職業意識の育成を図る。 (2)教科を学ぶ意義を明確にし、学ぶことと社会との接続を意識し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を全教科で行う。 (3)ホームルーム活動を中核としてシステム手帳を活用し自己管理能力を高めるとともに、自ら設定した目標の取組状況を振り返り自己評価を行うことでメタ認知能力を高める取組を推進する。
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	(1)資格・技能検定試験に積極的に取組み知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。 (2)地域社会学校協働活動を推進し授業やボランティア活動、部活動等学校教育活動を通じて学校と地域社会の連携・協働を広げ、社会貢献の精神を育む。 (3)6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。

<p>4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。</p>	<p>(1) 生徒授業評価・卒業生アンケートを実施し、授業の充実・改善に生かす。 (2) 障害の状態や発達の段階に応じた合理的配慮について組織的、継続的な支援を行い一人一人の生徒に応じた指導の充実を図る。 (3) いじめアンケートや情報モラル等への啓発を実施し問題行動の早期発見と人権意識や規範意識の向上に努める。</p>
---	---

4 重点目標と行動計画

重点目標	行動計画	評価指標
<p>1. これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していく</p>	<p>(1) 10年後の社会を意識しつつ「どのような力を身に付けさせるか」という目標とする学びの終着地点の明確化を図る。 (2) 学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。 (3) 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、生徒が主体的に試行錯誤したり、他者と協働したりして、自分なりの答えや新たな価値を生み出していく授業の充実を図る。</p>	<p>・ 授業研究会や研究授業において現在生徒が抱える課題に留まらず、将来必要となる資質を踏まえそのために各教科でどのような力をつけさせるのかを総括する。 ・ 上記で総括された内容を踏まえ教科用図書採択を実施する。 ・ 採択された教科書に基づき各教科等における特質に応じた見方・考え方が一層育まれるよう年間指導計画（シラバス）を策定する。 ・ 単元のまとめの場面や課題研究等において、新たに学んだ知識や技術と既存の知識と経験により推論を立てたり試行錯誤しながら問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりする思考・判断・表現をする場면을授業で設ける。</p>
<p>2. キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。</p>	<p>(1) 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点からインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い職業意識の育成を図る。 (2) 教科を学ぶ意義を明確にし、学ぶことと社会との接続を意識し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を全教科で行う。</p>	<p>・ 3年間の学校生活においてインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等学校見学の何れかに全員生徒が参加をする。 ・ 全開講科目の年間指導計画（シラバス）において、「キャリア教育の視点」を明記し、教科を学ぶ意義を明確にし、一つ一つの学習内容に見通しを持たせることで学習意欲の喚起を図る。</p>

	<p>(3) ホームルーム活動を中核としてシステム手帳の活用し自己管理能力を高めるとともに、自ら設定した目標の取組状況を振り返り自己評価を行うことでメタ認知能力を高める取組を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒がシステム手帳を活用し、「基礎的・汎用的能力」の四能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を統合的に高める。
<p>3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 資格・技能検定試験に積極的に取組み知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。</p> <p>(2) 地域社会学校協働活動を推進し授業やボランティア活動、部活動等学校教育活動を通じて学校と地域社会の連携・協働を広げ、社会貢献の精神を育む。</p> <p>(3) 6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科において定める基準に沿って、資格試験にチャレンジし平均8割の合格率をめざす。 ・授業、生徒会、部活動において防災・福祉分野での社会貢献の精神を育みつつ、生活圏の課題を知り、安全で持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究させる。 ・実習事故の件数ゼロ (安全衛生に関する生徒の意識アンケート)
<p>4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。</p>	<p>(1) 生徒授業評価・卒業生アンケートを実施し、授業の充実・改善に生かす。</p> <p>(2) 障害の状態や発達の段階に応じた合理的配慮について組織的、継続的な支援を行い一人一人の生徒に応じた指導の充実を図る。</p> <p>(3) いじめアンケートや情報モラル等への啓発を実施し問題行動の早期発見と人権意識や規範意識の向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業評価・卒業生アンケートの実施とPDCAサイクルによる継続的改善の実施。 ・特別支援教育コーディネータを中心とした校内組織により、入学前中学校訪問や個別相談を実施し、これらを踏まえニーズに応じた教育支援策を講じる。 ・必要に応じ個別指導計画を立案し卒業後の社会生活を見据えつつ、円滑な学校生活が過ごせるよう学校全体で合理的配慮を実施する。 ・生徒いじめアンケートを実施し、早期発見・早期対応を行う。 ・インターネットやソーシャルメディア利用に起因する問題の増加を鑑み、教員向け情報セキュリティ研修と生徒向けの情報モラル研修の実施。